

日時：2017年7月31日（月） 11:40~12:00

## 質疑応答

Q：社会インフラにおける成長に向けた費用とは、具体的には何でしょうか。

A：成長注力分野（放送・CATV、防災分野等）に対応するためのリソース確保や営業活動費などです。1Qに受注高は増えていますので、下期以降の売上高に貢献してくるものと考えています。

Q：社会インフラは、前年度の1Qの受注が、前々年度から大きく減少(△24%)していましたが、主な要因は何だったのですか。

A：2016年5月を期限とした消防救急無線デジタル化プロジェクトが終了した影響によるものです。

Q：上期の営業利益予想について、社会インフラを下方修正した一方で、キャリアネットワーク等を上方修正し、全社営業利益の予想値を変更していませんが、それはなぜですか。

A：社会インフラは、不採算プロジェクトが発生した影響などで計画を下回りました。その一方で、キャリアネットワーク分野は、通信事業者の設備投資抑制が底打ちしていることに加え、コスト構造改革成果が期初想定以上に顕在化していることから、社会インフラの遅れを十分カバーできると考えているためです。

Q：テレワークが話題となっていますが、働き方改革関連分野は今後も成長が見込める分野なのでしょうか。

A：マーケットも活況であり、今後も成長の期待が持てる分野だと考えています。当社は7月から全社でテレワークを導入していますが、7/24のテレワーク・デイでは役員会議もテレワークで実施したことがニュースで取り上げられるなど、話題となっています。自社での実践を活かし、今後とも働き方改革関連事業を拡大したいと考えています。

Q：不採算案件とはどのような案件でしょうか。

A：海外の鉄道システム案件です。新しい技術対応の所で問題が起きましたが、これを解決することで次の案件に繋げる事ができると考えています。

Q：前年度に受注した太陽光のプロジェクトは、業績に与える影響はどれくらいなのでしょう。

A：前年度に受注したプロジェクトは、建設・保守を含めると総額約155億円にのぼります。今期、売上高に与える影響は大きいですが、利益貢献は微小であり、その前提で業績予想に織り込まれています。

以上